



2021年8月6日

各位

会社名 大幸薬品株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 柴田 高  
 (コード番号: 4574 東証第一部)  
 問合せ先 執行役員経理部門担当 本間 豪  
 (TEL. 06-4391-1123)

通期連結業績予想の修正及び棚卸資産評価損の計上  
 並びに剰余金の配当(中間配当無配)及び期末配当予想の修正、  
 役員報酬の減額に関するお知らせ

当社は、2021年2月12日に公表致しました2021年12月期の連結業績予想の修正及び当第2四半期連結累計期間(2021年1月1日～2021年6月30日)において棚卸資産評価損を計上すること、並びに2021年6月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)を無配とすること及び期末配当予想の修正を、本日開催の取締役会にて決定致しました。

また、これらに伴い、同取締役会において役員報酬の減額を決議致しましたので、併せてお知らせ致します。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2021年12月期通期連結業績予想数値の修正(2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,000	4,500	4,400	3,100	71.57
今回修正予想(B)	12,500	△2,000	△3,400	△2,800	△64.24
増減額(B-A)	△9,500	△6,500	△7,800	△5,900	
増減率(%)	△43.2	-	-	-	
(ご参考)前期実績 (2020年12月期)	17,582	5,650	5,454	3,851	89.18

(2) 業績予想修正の理由

足元の状況と今後の市場環境を踏まえ、感染管理事業においては新型コロナウイルス感染症向けの需要予測が当初計画から大きく乖離するものと判断し、当期の売上高の見通しを大幅に下方修正致します。

前期においては、新型コロナウイルス感染症の発生及び流行拡大により、除菌関連製品の需要が急激に拡大し、当社の売上高も過去最高となりました。その後も新型コロナウイルス感染症は収束することなく、深刻な状況が続いていることから、前期と同様に当社の衛生管理製品に対する需要も比較的高い水準で推移するものと見通してまいりました。しかしながら、除菌関連市場は、新型コロナウイルス感染症流行の長期化による不安度の鈍化やワクチン接種による効果への期待等から、他社の商品を含め店頭等での市場在庫の消化が進んでいない状態であり、特に下半期(7～12月)において想定していた販売計画が当初予想を大幅に下回る見通しとなりました。

一方で、昨年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大時において、急激な需要増加から当社製品の供給が追い付かず欠品を招き、必要とされる時期に必要としていただいたお客様にお届け

できなかった反省点から、感染管理事業の製品在庫は手厚く保有する方針としてまいりました。しかしながら、今後の売上高の見通しを大幅に下げることにより、現在保有する棚卸資産のうち、正常な営業循環を逸脱するものと判断された対象については、評価減の会計処理を適用致します。これらの結果、売上高の下方修正に伴う売上総利益の縮小と評価損の計上等により、当期の営業損失は2,000百万円となる見通しとなりました。

さらに、感染管理事業については在庫調整のため現在生産を停止しております。当期の第2四半期以降の生産調整に伴い停止した生産設備にかかる製造経費については、操業停止関連費用として営業外費用に計上致します。本費用は通期で約1,100百万円の発生が見込まれるため、経常損失は3,400百万円まで拡大する見通しとなりました。

また、感染管理事業の増産用に取得しました金型等の設備について、生産量の減少から今後の使用予定がないと判断した部分には減損損失を適用し、当第2四半期連結累計期間において特別損失に225百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失は2,800百万円となる見通しとなりました。

これらの状況から、各段階の利益においても当初の業績予想から大幅に低下し、赤字に転ずる見通しとなりましたため予想を修正致します。

## 2. 棚卸資産評価損の計上

上記の業績予想の修正に記載の通り、当期の売上高の見通しを大幅に下方修正致します。これに伴い、感染管理事業にて保有する棚卸資産は過剰状態となり、正常な営業循環を逸脱するものと判断された対象の棚卸資産については、評価減を適用致します。この結果、当第2四半期連結累計期間において棚卸資産評価損1,721百万円を売上原価に計上致します。

## 3. 剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正について

### (1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	直近の配当予想 (2021年2月12日公表)	前期実績 (2020年12月期)
基準日	2021年6月30日	同左	2020年9月30日
1株当たり配当	0円00銭	7円00銭	7円00銭
配当金総額	—	—	303百万円
効力発生日	—	—	2020年12月14日
配当原資	—	—	利益剰余金

### (2) 期末配当予想の修正

	年間配当額		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (2021年2月12日公表)	7円00銭	13円00銭	20円00銭
今回発表予想	—	0円00銭	0円00銭
当期実績	—	—	—
前期実績 (2020年12月期)	7円00銭	18円00銭	25円00銭

### (3) 配当予想修正の理由

当社グループは、堅実な成長性を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績も反映した配当政策としております。

2021年12月期の中間配当につきましては7円00銭、期末配当につきましては13円00銭を

予想しておりましたが、上記の通り親会社株主に帰属する当期純利益について、当初の予想から大きく乖離した損失を計上する見通しとなりましたため、誠に遺憾ながら中間配当は無配を決定し、期末配当についても無配の予想に修正させていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、早期に復配ができるように努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 4. 役員報酬の減額

2021年12月期の業績予想について売上高、利益ともに大幅な下方修正を行ったこと並びに赤字予想となりましたこと、さらに配当予想も通期で無配に転じたことを真摯に受け止め、本日開催の取締役会において、以下の通り役員報酬の減額を決議致しましたのでお知らせ致します。

##### (1) 役員報酬減額の内容

代表取締役（2名）	月額報酬の30%
専務取締役（1名）	月額報酬の10%

##### (2) 対象期間

2021年8月から3ヵ月間

上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上